

↓ 当案内および過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記

新規受託項目

- [13801] 25-OHビタミンD《CLIA》
 - ・ 現行の [27769] 25-OHビタミンD [くる病] および [27425] 25-OHビタミンD (Total) [骨粗鬆症] は2026年3月31日(火)をもちまして、検査受託を中止する予定です。

受託開始日

- 2025年10月1日(水)



25-OHビタミンD

ビタミンDは、食事摂取または皮膚への紫外線照射を通じて体内に供給される脂溶性ビタミンの一つです。体内に取り込まれたビタミンDの大部分は肝臓で25位が水酸化され、25-ヒドロキシビタミンD (25-OHD) に変換されます。25-OHDはビタミンD結合タンパクと結合することで、安定的に血中を循環します。また、血中半減期が約3週間と比較的長いため、25-OHDの血中濃度は体内のビタミンDの充足状態を把握する指標として用いられます。

ビタミンDの主な生理作用は、小腸におけるカルシウムおよびリンの吸収促進です。ビタミンDの低下により血中カルシウム濃度が低下すると、副甲状腺ホルモン (PTH) の分泌が亢進します。これにより骨吸収が促進され、骨からカルシウムとリンが放出されるとともに、腎臓でのカルシウム再吸収も亢進して血中カルシウム濃度の維持に寄与します。

ビタミンDの欠乏は骨の石灰化障害を引き起こし、小児ではくる病、成人では骨軟化症の原因となります。これらの症状が出ない場合でも骨密度の低下および骨粗鬆症の発症を引き起こすことで、骨折リスクの増加につながります。

本検査はCLIA法を用いて25-OHD濃度を測定し、体内のビタミンD充足状態を評価します。これにより、ビタミンD欠乏性くる病や骨軟化症の診断およびモニタリング、ならびに原発性骨粗鬆症の治療方針の決定に有用な情報を提供します。

検査要項

新規受託項目		参考 (現行法)
項目コード	13801	27769、27425
検査項目名	25-OHビタミンD《CLIA》	25-OHビタミンD [くる病] 25-OHビタミンD (Total) [骨粗鬆症]
検体量	血清 0.4mL [容器番号: 01番]	血清 0.5mL [容器番号: 01番]
保存方法 (安定性)	冷蔵 (12日)	冷蔵 (4日)
検査方法	CLIA	ECLIA
基準値 (判定基準)	ビタミンD充足 30.0 ng/mL 以上 ビタミンD不足 20.0~29.9 ng/mL ビタミンD欠乏 20.0 ng/mL 未満 くる病の診断基準 20 ng/mL 以下*	ビタミンD不足 20.0~29.9 ng/mL ビタミンD欠乏 20.0 ng/mL 未満 くる病の診断基準 20 ng/mL 以下*
報告下限	3.4 ng/mL 未満	3.0 ng/mL 未満
報告上限	600 ng/mL 以上	同左
報告桁数	小数1位、有効3桁	同左
所要日数	2~3日	同左
検査実施料	117点 ([D007] 血液化学検査 [31])	同左
判断料	144点 (生化学的検査 (I) 判断料)	同左
備考	* : 15 ng/mL 以下であればより確実	同左

基準値 (判定基準) および診断基準の出典

- ・日本内分泌学会、日本骨代謝学会、厚生労働省難治性疾患克服研究事業ホルモン受容機構異常に関する調査研究班「ビタミンD不足・欠乏の判定指針」
- ・日本小児内分泌学会「ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」

実施上の留意事項 (令和6年3月5日 保医発0305第4号より抜粋)

(23) 25-ヒドロキシビタミンD

ア 「31」の25-ヒドロキシビタミンDは、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。

イ 「31」の25-ヒドロキシビタミンDは、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中にECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。

参考文献

田中一平 他: 生物試料分析 42 (4): 205-212, 2019.